

定期作況報告

平成28年8月
(8月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年並であった。降水量は平年並であった（平年比108%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比133%）。

8月上旬：最高気温は平年より高く、最低気温は平年並で、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年並であった（平年比110%）。日照時間は平年より多かった（平年比172%）。

8月中旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年よりやや高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比384%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比139%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温は平年よりやや高く、降水量は平年より極めて多く、日照時間は平年より多かった。

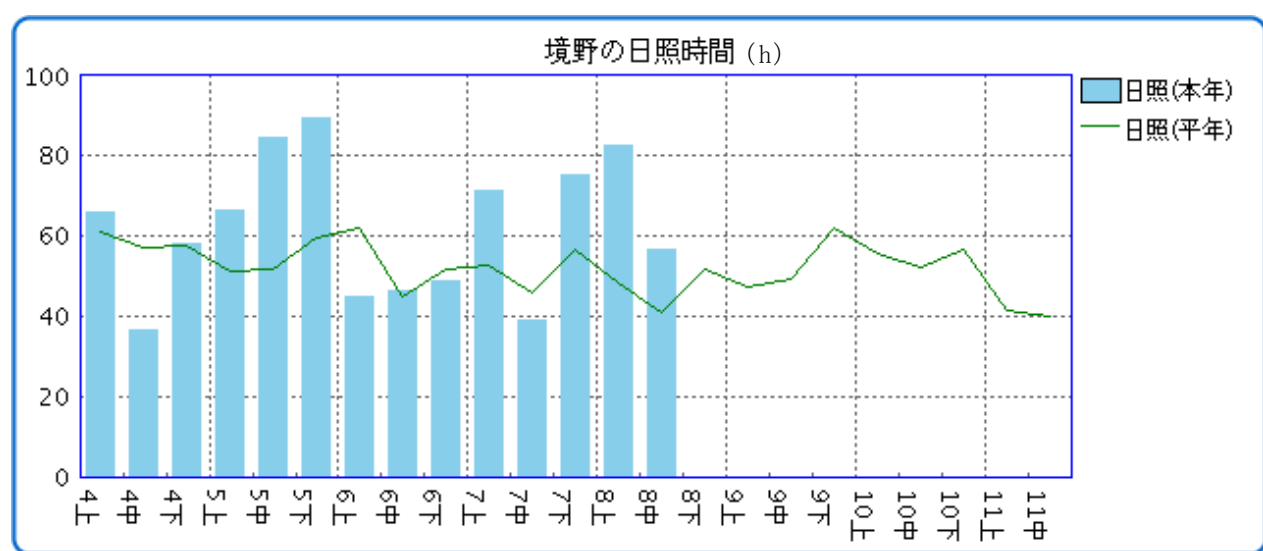
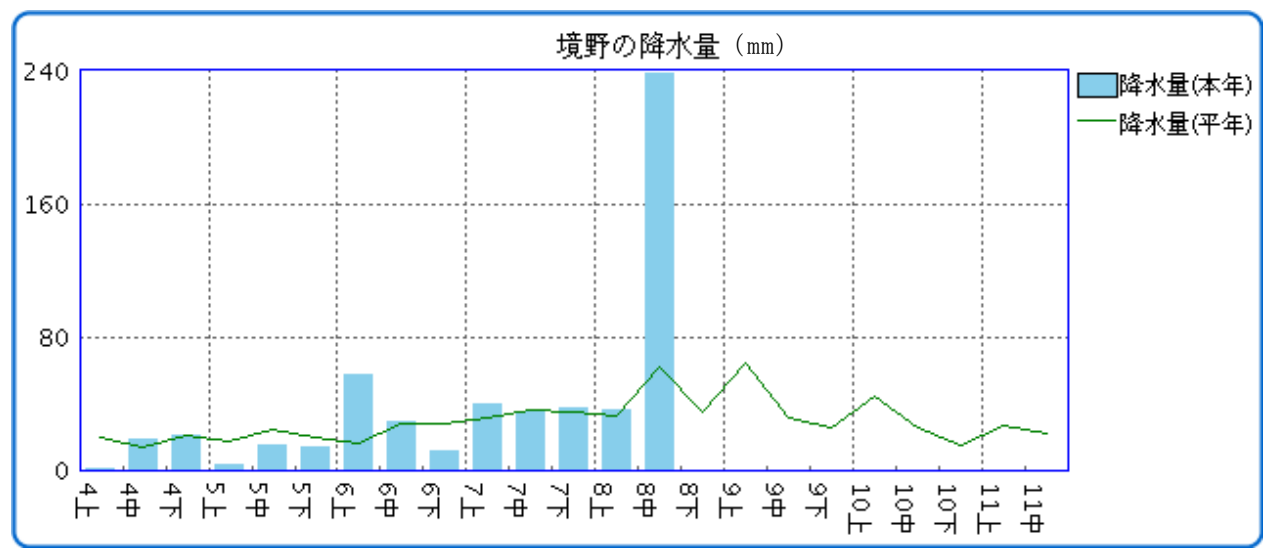
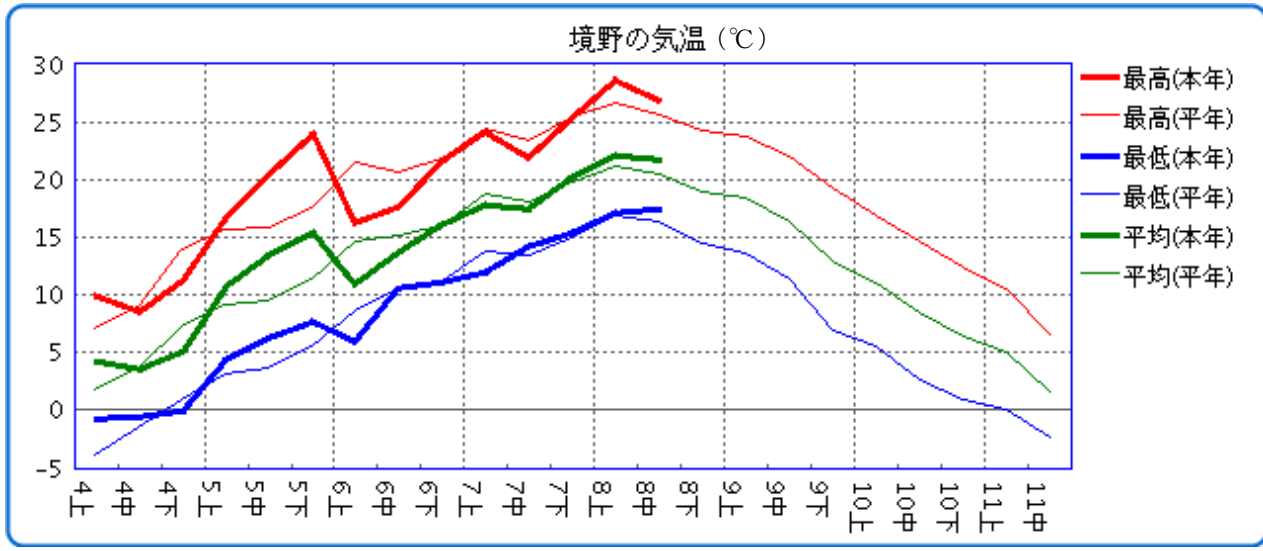
気 象 表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	20.2	19.8	0.4	25.3	25.4	-0.1	15.4	15.0	0.4
8月 月上旬	22.1	21.2	0.9	28.6	26.6	2.0	17.1	16.8	0.3
8月 月中旬	21.8	20.5	1.3	26.8	25.7	1.1	17.5	16.4	1.1

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	37.0	34.2	2.8	75.3	56.7	18.6
8月 月上旬	36.0	32.7	3.3	82.7	48.1	34.6
8月 月中旬	238.5	62.1	176.4	56.7	40.9	15.8

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：良

事由：成熟期は平年並の7月26日であり、登熟期間は平年より1日長かった。6月中旬以降の日照時間が平年並からやや多く経過したことから子実の充実は良好となり、リットル重および千粒重は平年を上回った。子実重は平年比110%であった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	7.26	7.26	0
子実重(kg/10a)	773	705	68
同上平年比 (%)	110	100	10
リットル重 (g)	814	794	20
千粒重 (g)	42.6	37.4	5.2

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、27年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：平年並

事由：成熟期は平年並から1日遅く、登熟期間は平年並であった。稈長、穂長は平年並であるが、穂数は平年を大きく上回った(前報)。7月下旬から降雨により倒伏が発生し始め、7月28日の倒伏程度は「春よ恋」が多、「はるきらり」が微であった。8月3日の大雨によって両品種とも倒伏程度は甚となった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	8.5	8.4	1	8.7	8.7	0

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや不良

事 由 : 開花期および抽糸期は、ともに平年より1日遅かった。8月上・中旬の気温が平年よりやや高く、葉数は平年並であったが、草丈は依然として平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	8.3	8.2	1
抽糸期 (月.日)	8.2	8.1	1
草丈(cm) (8月20日)	278.1	314.5	△36.4
葉数(枚) (8月20日)	15.0	14.7	0.3

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況 : 平年並

事 由 : 6月中旬までの低温による生育の遅れにより、開花始は平年より4日遅かった。その後、気温が平年並~やや高く経過したため生育は回復し、主茎長はやや短い、主茎節数、分枝数および着莢数はほぼ平年並となっている。なお、8月上~中旬の降雨の影響により、中程度の倒伏が発生している。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.21	7.17	4
主茎長(cm) (8月20日)	69.4	72.1	△ 2.7
主茎節数 (8月20日)	11.0	11.3	△ 0.3
分枝数(本/株) (8月20日)	6.1	5.7	0.4
着莢数(莢/株) (8月20日)	78.4	78.2	0.2

注1) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆

作況：やや不良

事由：6月中旬までの低温による生育の遅れにより、開花始は平年より「サホロシヨウズ」で5日、「エリモシヨウズ」で3日遅かった。7月下旬以降、気温は平年並～やや高く経過したため生育は回復傾向にあるが、いずれの品種も着莢数は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.26	7.21	5	7.27	7.24	3
主茎長(cm) (8月20日)	72.1	79.3	△ 7.2	70.6	70.9	△ 0.3
主茎節数 (8月20日)	13.5	13.1	△ 0.4	14.4	13.6	0.8
分枝数(本/株) (8月20日)	3.4	4.5	△ 1.1	3.7	4.2	△ 0.5
着莢数(莢/株) (8月20日)	43.1	55.7	△12.6	42.0	59.0	△17.0

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、24年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆

作況：やや不良

事由：草丈と主茎節数は平年並であるが、分枝数は平年をやや下回っている。8月上～中旬の降雨の影響で倒伏が生じており、着莢数は平年よりやや少ない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	49.5	51.0	△ 1.5
主茎節数 (8月20日)	5.7	5.3	0.4
分枝数(本/株) (8月20日)	4.1	5.3	△ 1.2
着莢数(莢/株) (8月20日)	19.3	21.8	△ 2.5

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：土壌水分が十分にあり、日照時間も多かったことから塊茎の肥大は順調で、上いも重は「男爵薯」では平年を上回り、「コナフブキ」は平年並である。でん粉価は、気温が高く経過したことと降水量が多かったことから、平年並からやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm) (8月20日)	53	50	3	83	79	4
上いも重(kg/10a) (8月20日)	5074	4486	588	3675	3732	△57
でん粉価(%) (8月20日)	14.7	15.2	△0.5	20.7	20.9	△0.2

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：この1か月間は、気温が平年よりやや高く、降水量および日照時間も十分であったため、地上部の生育は順調に進み、草丈、生葉数、茎葉重はいずれも平年をやや上回っている。一方、地下部の生育は地上部よりやや遅れており、根重および根周はいずれも平年並～やや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	62.9	60.2	2.7	60.3	55.9	4.4	64.5	62.4	2.1
生葉数(枚) (8月20日)	28.2	27.5	0.7	29.2	27.0	2.2	18.7	21.7	△3.0
茎葉重(g/個体) (8月20日)	891	832	59	982	855	127	717	793	△76
根重(g/個体) (8月20日)	678	720	△42	736	789	△53	455	588	△133
根周(cm) (8月20日)	29.1	30.8	△1.7	32.0	33.1	△1.1	24.9	29.8	△4.9

注1) 注平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前6か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況：平年並

事由：2番草は平年より6日早い8月5日に収穫を行った。2番草収穫時の草丈は平年並であったが、節間伸長程度は平年よりやや大きかった。2番草の乾物収量は平年比111%と平年より多かった。一方、1番草との合計乾物収量は平年比104%と平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	2番草	8.5	8.11	△6
節間伸長程度	2番草	3.3	2.8	0.5
病害罹病程度	2番草	3.0	3.3	△0.3
草丈(cm)	2番草	58	58	0
生草収量(kg/10a)	2番草	807	792	15
乾物率(%)	2番草	23.5	22.5	1.0
乾物収量(kg/10a)	2番草	189	170	19
同上平年比(%)	2番草	111	100	
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	783	750	33
同上平年比(%)	1+2番草	104	100	

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作況：やや良

事由：倒伏期の8月上旬までの気温および降水量は概ね平年並に推移し、日照時間はやや多かったことから、球肥大は順調に進み、一球重は平年を大きく上回っている。しかし、8月中旬の気温はやや高く、多雨であったことから、一部で葉部病害の発生が認められ、今後、品質低下が懸念される。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	スーパー北もみじ			オホーツク222(参考)			北もみじ2000(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期(月.日)	7.25	7.22	3	7.12	7.10	2	7.25	7.18	7
倒伏期(月.日)	8.10	8.8	2	7.31	7.30	1	8.10	8.4	6
根切期(月.日)	-	8.25	-	8.19	8.19	0	-	8.21	-
一球重(g)(8月20日)	296.2	219.7	76.5	321.6	255.5	66.1	339.9	219.3	120.6

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。但し、参考品種は前6か年平均。